

## 肌感 hadakan 2月23日（土）

吉本・笑いの王国とその魅力を見続けて ～笑いの殿堂となんばをぶらっといこか～

[トップ](#) >> [創造人を肌で感じるツアー ～肌感 hada kan～](#) >> [吉本・笑いの王国とその魅力を見続けて](#)



### ツアーレポート

2月23日（土）に催された田中宏幸さんのツアーの様子をご紹介します。

※画像はクリックすると拡大します

[田中宏幸さんのプロフィールとツアー概要はこちら](#)

### 緊張感あふれる舞台裏を見学

夕刻のなんばマルイ前に集合したツアー一行は、南海通をショートカットして「なんばグランド花月(以下、NGK)」前へ。正面玄関前の賑わいを横目に建物裏手へとまわりこみ、今日はなんと芸人さんや社員さんたちが出入りする通用口からNGKに入れていただきます。ツアー冒頭からいきなりスペシャルな展開に一同ワクワク。通用口では今回の創造人・田中宏幸さんが出迎えてくださいました。



一般の人は入れない通用口から特別に

「演芸場」の表構えとはずいぶん趣が異なり、バックヤードはぐっとスタイリッシュな雰囲気です。ガラス張りのミーティングルームに通された一行に田中さんがまず話してくださったのは、NGKがあるこの場所の歴史。「千日前通から南側のこのあたり一帯は江戸時代は刑場や墓場だった土地。NGKのある場所はちょうど焼場の裏にあたります。当時の劇場はもうすこし北の道頓堀ぞいに集まっていた道頓堀五座と呼ばれていました」。



通路にはポスターがいっぱい



田中宏幸さん



「このあたりはその昔・・・」

ほどなく、田中さんの先導で館内、舞台裏の見学に出発。「チャキチャキ歩いてください。みんな仕事なので静かにね」。スピード感溢れるテキパキとした仕切り、鋭い眼光。さすが、長年、敏腕プロデューサーとして鳴らしてきた方といった感じです。

まず向かったのは照明室。2-3名のスタッフが暗い室内に無言で機材に向かっていきます。前方の窓から見おろす煌々とした舞台上では、大助・花子さんが漫才の真っ最中。舞台上の演者の声や客席の笑いもスピーカーから聞こえてはいますが、ガラス一枚隔てた「あちら側」と「こちら側」ではまるで別世界のように空気が違います。足音さえしのばせて移動した隣の音声室には、さらに多くのスタッフが働いていましたが、張り詰めるような空気に気圧されて一行は早々に退出…。舞台上部・キャットウォークへの入口を見せていただいたり、舞台袖から上演中の舞台を垣間見たり、出番待ちらしき芸人さんを遠めにチラリと眺めたり。笑いの殿堂の舞台裏には、思いもよらない緊張感と静寂があり、そのギャップがかなり鮮烈な印象です。「ここは僕らにとっては職場なんで、みんなけっこうピリッとしていますよ」と田中さん。「昔から、芸人が笑うと客がだれる」といってね。よく見るとみんな目は笑っていない。そういう世界です」。



照明室



音声室



舞台上部・キャットウォークへの入口



舞台袖には大道具搬入用のエレベーターが



本番中の舞台袖へも！



巨大な脚立！

## NGK総支配人のお話も！

舞台裏の見学を終えてミーティングルームに戻り、お話の続きを伺います。さきほど舞台袖で見かけた落語台に話を戻し、「落語台は一間四方、舞台幅は五間半。舞台ではいまだにサイズ表示は尺と間。センチやメートルは使わない」ことや、舞台に出てきたときより去るときのほうが拍手が大きいことをいう「去り喝采」、これから登場する芸人への期待で客席がざわめくことをいう「ジワがくる」といった芸人にとって誉の言葉も、いずれも歌舞伎から来た表現であることなども教えていただきました。

NGKの新田総支配人が顔を出してくださいました。吉本興業の劇場は、現在、東京と関西あわせて全7館。「自前の劇場を持って日々興行をしているのはプロダクションではウチだけ」だとか。中でもここNGKは、平日の朝から満員御礼の日も珍しくないそう。「あくまでも舞台が軸となるのが吉本の特徴。新人芸人はまず劇場で社員におぼえられ、ファンに愛され、1組のコンビで100人、200人集められるようになってはじめてテレビへ進出していきます」と新田総支配人。田中さんも「ここが檜舞台であり、原点。吉本の芸人はどんなに売れても客前でやりたがるね」。

かつて新田さんがマネージャーをしていたダウンタウンさんや田中さんがマネージャーをしていた明石家さんまさんなど、今はおもにテレビを中心に活躍する大御所芸人さんの中にも、「客前」を尊ぶ精神がずっと生きている、というお話も…。



新田総支配人



お二人のお話に興味津々

吉本の新人養成所「NSC」には毎年約500人が入ってくるそうですが、その中で1人残るかどうかという厳しい世界。「売れる、売れないの見極めは?」「実力とギャラは比例する?」など、参加者からも生々しい質問がどんどん飛び出し、ひるまず答えてくださる田中さんとのキャッチボールで、場はしだいにエキサイティングに。

「新人のことを“この子はいけそう”というふうな見方はあまりしません。お笑いはその場で受けるか、受けないかがすべて。」「4500円払って笑って納得して帰ってもらえれば成功。しかしそれもカウンタブルではない」。作り手側ならではの視点や言葉が響きます。



## ワッハ上方の展示室を見納め

NGKの筋向かい、3月末には諸般の事情で閉鎖してしまう「ワッハ上方」の展示室へ。懐かしのレコードレーベルのコーナーで、初代春団治の落語の一節を聞いたり、ミニ演芸場の「上方亭」では役者ぞろいの参加者が羽織をはおってかわりばんこに落語体験をしたりと、一行は田中さんを囲んで大はしゃぎ。昭和初期の吉本興業の出番表やむかしのミナミの模型図などがある「演芸早わかり散歩道」では、参加者からの「大阪と東京の笑いの違いは?」との質問に「吉本はボケ・ツッコミが好き。関東では受けるダジャレみたいなのはあまり好きじゃないかも」と田中さん。



ワッハ上方へ



懐かしのレコードを聴いて



落語体験?



こ～んなことも

## 千日前道具屋筋商店街をぶらり歩き

ワッハ上方をあとにした一行は、NGKの南にある千日前道具屋筋商店街の雑踏へ。ご近所のよしみで田中さんもちよくちよくぶらり歩きを楽しんでいるそう。もともとは飲食店経営者をターゲットにした専門商店街だったのが、観光地としても注目され始め、「店舗を紹介したリーフレットをつくるなどして商店街としてもすごく頑張っている」とか。

道具屋筋商店街の副理事長・菅波賢二さんにご挨拶。菅波さんに「食品サンプルの雑貨を置いているおもしろいお店があるので、行ってみますか?」と誘われ、ビルの2階にある「デザインポケット」さんへ。けっこうリアルなシヤモや天ぶら、カニ爪などがマグネットやキーホルダーになっていて、見ているだけでも楽しめます。



道具屋筋をぶらぶら



道具屋筋商店街の菅波副理事長さんと



食品サンプルの雑貨店を見学

## 田中さんお薦めのダイニングにて

道具屋筋の散策の次は、一本東の通りにある田中さんお薦めのお店「DININGあじと」へ。お仕事の関係者をもてなすことも多い田中さんが「グルメな女性に喜ばれる」と評するお店は、重厚な調度やステンドグラスも素敵なたたずまいです。

2階奥の個室風のスペースに陣取って乾杯！ 寛いだ雰囲気の中、お話は、田中さんの吉本入社当時の思い出から、舞台の照明効果のお話、視聴率のお話、息子さんの転職話、大阪の隠れた優良企業の話、就職活動を控えた若者へのアドバイス、かつて携わった大イベントでの役所や警察とのバトル話など、縦横無尽に広がっていきます。



「DINING あじと」へ



個室でゆったり



何杯目かの乾杯



お料理もおいしい



お料理もおいしい



お料理もおいしい

「吉本の強みは舞台が中心であること。きちんと金儲けも考えていること。そしてもう一つはコトバの強み。おかあちゃんのコトバ=mother tongueを芸の言葉に鍛えている芸人さんは強い。」 「1のものを5にするテクニックはジジイにもある。大切なのは、0を1にできる人」…そんなお話からは、笑いという捉えどころのないものを扱う企業ならではの度量の広さと同時に、強い戦略性も窺えます。

笑いの健康効果をアカデミックに研究する「吉本お笑い総合研究所」の所長でもあった田中さん。「笑ってもらって医療費が下がったら、エンターテインメントにお金がまわるんじゃないか？ そんなことをまじめに考えている」とも。さらに、「これからの高齢化社会のキーワードは“自慢”だと思う。あらゆる情報にネットでアクセスできる時代だからこそ、実際にく〜へ行ってきた>というアナログなことこそ自慢になる」とも。

ご本人いわく、「プロデューサーの仕事は、既存のものを組み替えたり、視点を変えることで新たな付加価値を生み出すこと」とか。今回のツアーでは、田中さんの熱血トークを通して、まさにその発想や目線に数多く触れることができました。とても刺激的で充実した時間です。

予定の時刻を過ぎ、いったん「あじと」を出た一行は、田中さんに導かれてぞろぞろと2軒目へと移動。田中さんお気に入りの「上海食亭」で飲茶などつまみながら、酔いも手伝ってさらに数時間…。硬軟織り交ぜた刺激なお話に酔いしました。



## ツアー概要

**このページの情報は、終了した事業に関するものです。**

今年101年目を迎える吉本興業。その聖地である「なんばグランド花月」。

今回の創造人は、お笑い王国吉本興業の田中宏幸さん。なんと吉本一筋35年。

笑いのチカラと魅力を作り続け、見続けてきた仕掛け人。タレントマネージャーから始まり、新喜劇やテレビ制作、また100周年イベントにも携わってきた笑いのプロフェッショナル。

普段の何気ないお話に、知っているようで知らない「笑い」の不思議な力、魅力が溢れています。なんばグランド花月の見学とお話、「ワッハ上方」、道具屋筋、ミナミでしか味わえない人情たっぷりなまち散策もお楽しみに。もちろん最後はお気に入りのお店で飲んでまったり語らいを。田中さんが愛してやまない街〜なんば〜を感じてもらえる一日です。

内容	NGK見学とミナミ街あるき&飲み語り
日時	2013年2月23日（土） 16:00集合（なんばマルイ1階正面玄関前） 19:00頃解散（難波駅周辺）

定員	5名 (20歳以上の男女)
料金	3,000円+飲食費実費 (4,000円程度)
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 飲酒をともなうツアーのため、お車でのお越しはお控えくださいませ。</li> <li>2. 参加費は事前に銀行振込、飲食費は各店舗で実費精算となります。</li> <li>3. 雨天決行</li> <li>4. 申し込みは定員になり次第締切らせていただきます。</li> <li>5. 内容は変更する場合がございます。</li> </ol> <p>振込口座等の詳細は、お申し込みいただいた際にお知らせいたします。 その他、ご不明な点はセンターまでお問い合わせください。</p>
申込方法	定員に達したため、締め切りました

▼ 田中宏幸 (よしもとアドミニストレーション本部長)

1954年 京都市生まれ

1978年 吉本興業株式会社入社

桂三枝 (現6代桂文枝)、明石家さんまのマネージャーを経て、数多くのテレビ番組、イベントのプロデュースを行う。

1990年「花と緑の博覧会」では外国人パフォーマーを招聘し、メインステージにてイリュージョンショー「FERCOS」を制作。

後藤ひろひとを中心とする演劇ユニット「PIPER」を立ち上げ。

「吉本お笑い総合研究所」所長として「笑い与健康」をテーマに研究。

吉本創業百周年実行委員会の副実行委員長を経て、現職。

[過去の肌感についてはこちら](#)

サイトポリシー・ プライバシーポリシー	> enocolについて > 事業紹介 > フロアガイド > レンタルスペース	> お知らせ・プレスリリース > メルマガ登録 > ニュースレター > お問い合わせ > アクセス	Like 0 ツイート	
指定管理者				
バナー広告募集				